

スリランカ

運輸部門整備計画（鉄道）



本事業により修復された機関車

〔借款概要〕

承諾額/実行額	10,617百万円 / 9,114百万円
借款契約調印	1990年8月
借款契約条件	金利2.5%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1999年11月

〔事業概要〕

スリランカ国鉄の機関車の機能向上、車両工場の近代化及び軌道の改良を行なうことにより、鉄道輸送能力の増強を図るもの。

〔評価結果〕

本事業においては、エンジン等の故障により稼動していなかったディーゼル機関車10両のリハビリの他、軌道300kmの改良、車輛工場の老朽機械の取替え、資材管理方法の改善、コンピュータ化等を実施した。

事業の完成（1999年）以降、修復された機関車の稼働状況は良好である。また、列車の運行状況については、事業実施前（1997～99年）には定刻ないし10分以内の遅延による運行が約50%の割合であったのに対し、完成後の2000年には60%を上回るなど、軌道改良が鉄道輸送の信頼性の向上に寄与したことが窺える。

全国の旅客・貨物輸送における鉄道の比重は1990年代を通じて伸び悩んでいるが、今後、首都圏内及び地方都市間の輸送手段として重要性を増すものと見られている。

そのためにも、機関車や車輛工場等の設備を適正に維持管理して行くことが求められるが、技術者の不足により機器の修理が困難な状況もあるため、今後、技術者の養成、財源の確保等が課題である。